

すえまつ 末松遺跡

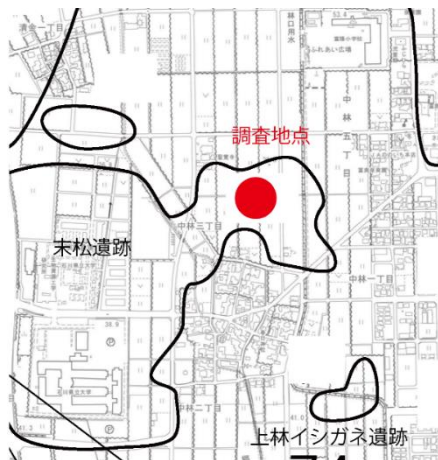
調査面積	1,887 m ²
調査期間	令和5年4月3日～令和5年8月10日
遺跡の種類	集落跡
遺跡の時期	古代、中世
主な遺構	たてあな ^{たてあな} 建物、ほったて ^{ほったて} 柱建物、溝、土坑、小穴
主な遺物	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世陶磁器、玉製品、打製石斧 ^{せきぶ}

概要

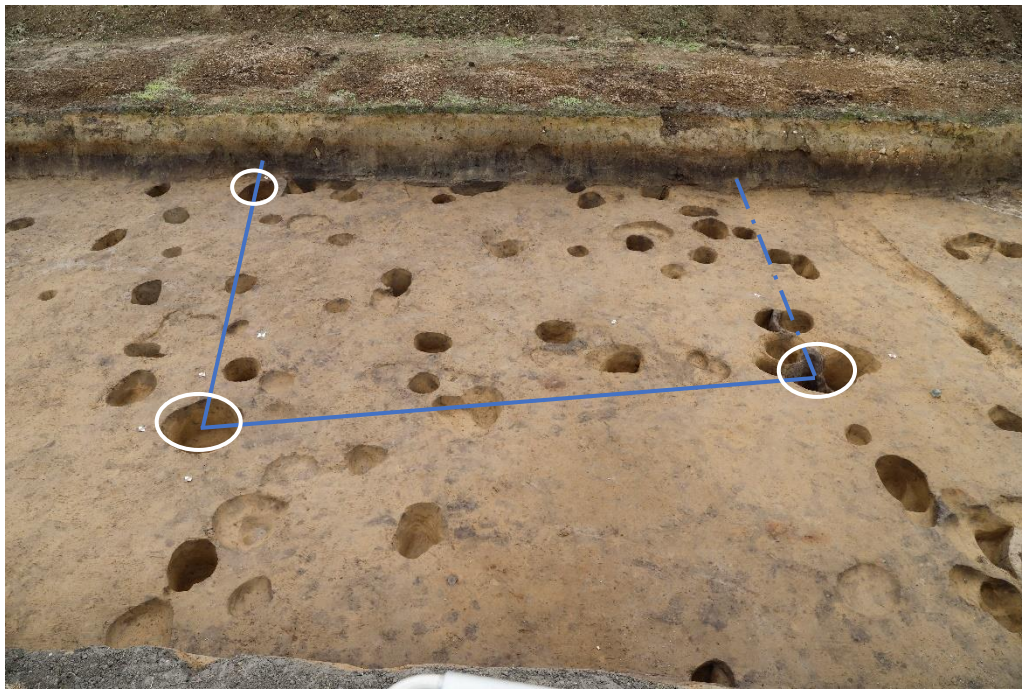
末松遺跡は、国史跡末松廃寺跡の東側に位置し、中林土地区画整理事業に伴い平成29年度から継続的に発掘調査を行っています。

令和5年度は区画道路を建設する範囲の発掘調査を実施しました。主に古代（奈良・平安時代）から中世（鎌倉・室町時代）の集落跡が見つかりました。古代は掘立柱建物や、土師器が出土した竪穴建物、中世は総柱の掘立柱建物、竪穴状遺構と呼ばれる大型の土坑などが複数見つかりました。

調査区の南側で検出した中世の竪穴状遺構は2つの遺構が重なり合うもので、遺構が交わる部分に人の頭の大きさほどの石積みが確認されました。この石積みは、建物を建て替える際に壁面の補強のために設置されたと考えられます。同じものが令和2年度発掘調査時にも見つかっています。



遺跡の所在地



古代の掘立柱建物



中世の竪穴状遺構・石積み